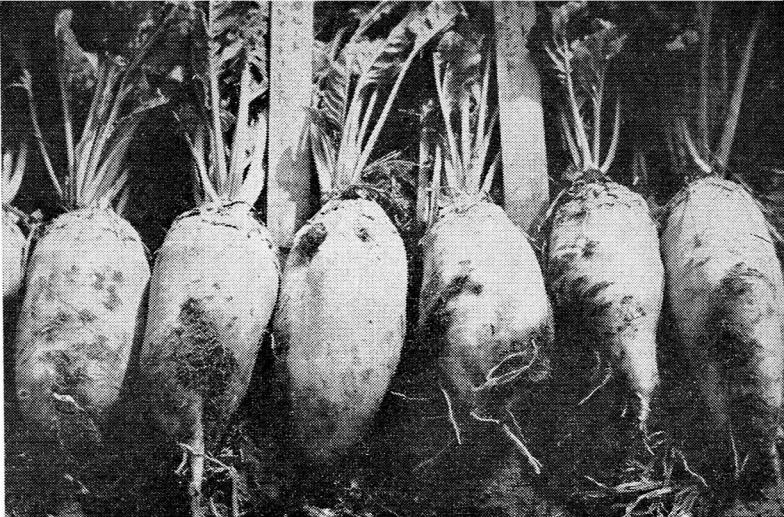


暖地家畜ビート

の真価

薄 厳



暖地の夏期間は高温多照、干魃等のために牧草類は衰退して生育不振、夏枯れ時期に入り、酪農家にとっては本当に辛い時期です。連日の暑熱で弱っている乳牛に更に牧草の夏枯れで良質な飼料が欠乏するので、二重の苦痛であります。

この時期に青々と繁る栄養に富んだ牧草と、多汁質で乳牛の嗜好に適したよい作物があつたならとは、暖地酪農家の一致した願望であります。

早春の青刈麦類から牧草、野草と初夏までは豊富な草で乳量が上昇して来ますが、夏枯れ期になると、乳牛は食欲不振となり濃厚飼料も好食せず、牛体は日増しに衰え、乳量は激減し、仲々回復しないものです。

この夏枯れ対策としては、初夏の青刈や牧草のエンシレージ貯蔵、あるいは青刈玉蜀黍、テオシンント、ソルゴー、スレーダングラスなどの真夏の候の青刈作物を作付準備することが大切ですが、他面家畜の食欲を増進させるために、多汁で栄養に富み嗜好性の高い家畜ビートを給与すれば、この夏枯れ時の困難を大いに緩和することが出来ます。

暖地の酪農家は、飼料畑が少ないので、全般に自給飼料が不足し、濃厚飼料の多給のため乳牛の体液が酸性となり勝ちです。これを中和するために乳牛はアルカリ性の飼料である家畜ビートを必要とします。その上、家畜ビートは多量の水分、一〇%以上の糖類を含んで居り、更に又、夏とり家畜ビートは葉をつけたまま収穫给您しますから、蛋白質成分の含量も高く、ビタミン

類もそのまま摂取されるので、乳牛の健康維持や泌乳促進のために役立ち、夏バテを防ぎ、乳量を増し、繁殖障害の軽減にも役立つと考えられます。

家畜ビートは、砂糖生産原料となる甜菜（シュガービート）と同属のもので、糖分、ビタミンの含量が高く、北欧では古くから家畜のための冬期間の生の貯蔵飼料として利用され、地力さえ充分なら、素晴らしい生育をとげ、我が国でも北海道の酪農家にとって冬季間の多汁飼料として欠くことの出来ないものとなっていますが、前記の理由から、暖地でもその必要性が認識され、数年前より栽培利用する農家が急激に増加し、夏枯れ対策の重要な一環として注目を引くに至り、栽培面積も逐年拡張されつづります。寒地では春まきして秋に収穫で一八〇～二二〇日の日数を要するが、暖地では一二〇日前後の日数で収穫可能、然も反収一万キロ程度の根葉部を収穫出来るので、間引や病虫害防除の労力がかかるとしても極めて能率的な作物と言つことが出来ます。

品種

家畜ビートの栽培利用に当つては、地力、品種の選択、病虫害の防除が増収のポイントとなります。以下千葉附近の体験をもとに栽培の要点を紹介いたします。

第1表 品種別の収量

品種名	3月20日播7月21日調査 10%当りキロ				3月20日播7月30日調査 10%当りキロ				備考	
	葉重	根重	総重	比率	葉重	根重	総重	比率		
ハーフシュガーネロー	3,540	6,900	10,440	100	2,820	6,330	9,150	100		
ハーフシュガーレッド	3,540	5,760	9,300	89	3,000	5,400	8,460	92		
シュガーマンゴールド	2,940	8,490	11,430	109	2,460	7,800	10,260	112		
バーレストリーネ	2,760	8,490	11,250	108	3,060	9,060	12,120	132		

第2表 耐病性品種と収量

品種名	3月20日播7月17日調査 10%当りキロ				4月1日播 8月10日調査 10%当りキロ				備考	
	葉重	根重	総重	比率	葉重	根重	総重	比率		
雪印改良MGM	6,210	4,770	10,980	101	4,110	7,020	11,130	100		
シュガーマンゴールド	5,160	5,640	10,800	99	1,920	9,600	11,520	104		
ハーフシュガーネロー(比較)	5,610	5,250	10,860	100	2,730	8,400	11,130	100		

数年間千葉農場で行なった品種比較試験から考察を加えると、雪印M.G.M.は、他の品

なければなりません。窒素、磷酸、カリはもちろんのこと、堆厩肥の増施が特に重要であります。

播種期

シユガーマンゴールド、ハーフシユガー
ニロー、バーレスストリーネは根部の肥大
力旺盛で、一〇kg当たりの総収量では一万kg
以上の高収量を挙げ得るが、八月の盛夏期に
入ってからの生育には弱いので、こしひ

は入ってから病害には弱いので、これら
の品種は早期利用に適しております。
家畜ビートには褐斑病の発生が多いので
耐病性が問題となります。雪印改良 MG
M は褐斑病に対する抵抗性が非常に強く、
晚生のため生育期間を延長するためにペー
バーボット栽培にも適しております。

適
地

家畜ビートは深根性であるから、表土深く、排水良好、底土も肥沃な砂壤土、壤土に適するが、暖地においては比較的の土地の選択性は少なく、pH六以上の土地では洪積層台地でもよくできる。地下水の高い湿潤地には成績がよくない。酸性が強い土壤では、石灰を施用して酸土矯正を行ないます。堆厩肥を充分施し、よく深耕し、よく整地することが必要であります。

家畜ビートは飼料作物の中でも吸肥性が強く、反当たりの養分吸収量も多い。したがって施肥効果も大きい作物であるから、多
く施肥栽培をねらう場合には施肥量も多くし

第3表 施肥用量試験成績

区別	施肥量(10分当りkg)			7月21日収量調査(10分当りkg)					
	硫安過石塩加	堆肥	石灰	葉重	根重	総重	収量比		
三要素区	18	55	15	2,500	0	5,760	8,010	13,770	100%
無肥料区	0	0	0	0	0	3,630	4,110	7,740	56
無堆肥三要素区	18	55	15	0	0	4,500	6,720	11,220	81
石灰三要素区	18	55	15	2,500	180	6,480	7,890	14,370	104
窒素少量区	9	55	15	2,500	180	4,710	7,710	12,420	90
窒素多量区	36	55	15	2,500	180	6,990	9,330	16,320	119
磷酸少量区	18	25	15	2,500	180	4,650	6,000	10,650	77
磷酸多量区	18	110	15	2,500	180	6,420	9,180	15,600	113
カリ少量区	18	55	6	2,500	180	5,940	7,260	13,200	95
カリ多量区	18	55	30	2,500	180	6,210	8,520	14,730	107

第4表 播種期試驗成績

播種期	7月20日調査 10m ² 当りkg					生育数
	葉重	根重	総重	比率	%	
月 日						
3. 10	5,490	8,250	13,740	100	100	132
3. 20	5,700	9,240	14,940	109	109	122
3. 25	6,330	8,550	14,880	108	108	117
3. 30	6,270	8,400	14,670	107	107	112
4. 5	5,730	7,050	12,780	93	93	106
4. 10	5,820	5,400	11,220	82	82	101
4. 15	5,490	4,860	10,350	75	75	96

播種量は一〇kg当り一~二kg、条播あるいは点播、畦幅は六〇~七〇cm、覆土は慎重に行なうべきで土壤にもよるが、三~四cm以内とし、重い土壤では薄くする。覆土後軽く鎮圧すれば発芽が揃います。

管
理

中耕は除草の都度二～三回行ない培土の必要はなく、葉が伸長して畦間がかくれるまで時々中耕すると雑草を防ぐだけでなく、空気や雨水の透通をよくしビートの生育を促進いたします。

家畜ヒートの病害の主なるものは、被致病菌によるもので、立枯病、蛇眼病、根腐病等であり、害虫は稚苗時のジノミ（フタバを晴天時に食害する）、ハモグリバエ（葉の表皮内にもぐり葉肉を食害する）と生育期のネキリムシ（やや大きくなつた苗を根際からかみきる）とヨトウムシです。これら病虫害の防除は、H.C.、DDTの散布、病害に対しては、銅

条播した家畜ビートは、発芽後本葉三~四枚のころ、畑に多少湿氣がある曇天の日を選んで、株間二五~三〇㌢ぐらいに間引きます。この際残す株の根が動かないよう注意いたします。間引きが遅れると、葉が入り交って作業が困難になるばかりでなく以後の生育に悪影響があるから注意を要

二十日播きが収量多く、三月中旬に播種したものの収量の差は少ないが、四月播きからは播種期が遅れるに従い急激に減収しているので播種期が大きく影響するものであります。この結果からみても暖地における畜ビートの播種適期は地方により若干の差はありますが、当地方では数年間の播種試験の結果からみて三月中～下旬ころが適当であります。